提出された議案

令和６年６月定例会では議案19件が提出され、いずれも原案のとおり可決、承認または同意されました。

○条例議案　８件
- 福岡県税条例の一部を改正する条例の制定について
- 地方活力向上地域における福岡県税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律の制定に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
- 福岡県子育て応援基金条例の一部を改正する条例の制定について
- 福岡県児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 福岡県幼保連携型認定こども園の設備及び運営の基準に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 福岡県建築基準法施行条例の一部を改正する条例の制定について
- 福岡県警察職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○専決処分したものについて報告し承認を求める議案　１件
- 福岡県税条例等の一部を改正する条例の制定について

○工事請負契約の締結に関する議案　７件

○人事に関する議案　２件
- 教育委員会委員の任命について
- 監査委員の選任について

○委員会提出議案　1件
- 福岡県議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

可決された意見書、採択された請願

可決された意見書
- ○農林水産業の経営安定のための物価高騰対策を求める意見書
- ○優生保護法問題の早期解決を求める意見書
- ○インターナショナルスクールに対する財政支援を求める意見書
- ○私学助成の拡充に関する意見書

採択された請願
- ○私立小・中・高等学校への助成制度の拡充等に関する請願

６月定例会において「議場における呼称」を改正

改正前：議長の議員に対する呼称は性別を問わず「君」とする。

↓

改正後：議長の議員に対する呼称は、「議員」とする。

代表質問を終えて

自民党県議団

議会に海外活動への同行を要請する目的とその効果について質したところ、服部誠太郎知事からは県の課題や施策の方向性について共通認識を持つとともに、海外戦略の必要性や重要性を理解し、円滑に施策が実行できるという効果やこれまでの実績も踏まえ、引き続き、県議会の皆さんと連携を図りながら、本県の産業振興をはじめ、さまざまな政策の実現のため、海外活動に取り組んでまいると力強く答弁されました。

国内外からの観光誘客促進について、「よかバス」の開始により県内周遊バスツアーには、2カ月で約6千人の方が参加され、手ごたえを感じており、福岡観光の定番として定着させていきたいと考えている。欧州からの誘客についてもさまざまな取り組みを通じ、欧州での知名度向上とさらなる誘客を図ってまいると答弁されました。

我が会派の藏内勇夫相談役が、世界獣医師会次期会長に正式に決定され、世界を見据えたワンヘルスの今後の取り組みについて質したところ、知事は就任以来、ワンヘルスの世界的先進地を目指した取り組みを進めてきた。「ワールド・ワンヘルス・コングレス」の誘致に向け引き続き、県議会とともに誘致に取り組んでまいると答弁がありました。

学びの多様化学校の検討状況について教育長に質したところ、小郡高校のコースとして1学級設置する事や、教員配置やスクールカウンセラー等の重点的な配置を行うなど他の学校にない手厚い支援体制を確立するとの答弁を得ました。

最大会派として引き続き、県民の皆さまの負託に応えてまいります。

民主県政県議団

服部誠太郎知事から、タイ王国領事館の福岡市への誘致実現など、県議会議員の海外視察が県政に寄与しており、今後も県議会とともに海外活動に取り組むとの発言を得ました。また畜産物の輸出拡大を視野にアニマルウェルフェアに取り組んでいく、災害対策として、新たな土砂警戒区域の調査を行うこと、ダムの事前放流、緊急放流が洪水被害軽減に効果的と回答されました。パートナーシップ宣誓制度は市町村によって偏りがあり、制度への理解を求めていくとの回答を得ました。

今後廃棄が増加する太陽光発電パネルのリユース、リサイクルを進めるとともに、ペロブスカイト太陽電池の県内の導入について検討すると表明され、十分な回答が得られなかった保健福祉環境事務所の保健・環境部門と福祉部門の独立と保健所の体制強化については今後も知事を質していく予定です。

社会的に孤立する高齢者の支援のため、市町村と連携して取り組んでいくこと、孤独死・孤立死を防ぐため、「見守りネットふくおか」の包括協定締結事業者を増やしていくと知事が発言されました。

教育問題では、常勤の教員、非常勤講師とともに定数を満たす事ができておらず、小学校教員採用の志願状況も1・2倍と前年度と同率で改善が見られないこと、低迷している障がい者雇用を増やすため、新たな働き方を試行しているとされ、今後、現場の意見・実態を把握し、関係機関と連携して本県教育の充実に取り組むと教育長の決意を得ました。

公明党

今回の質問項目に、私が服部誠太郎知事のロンドン・パリ3泊5日の訪問に同行した体験を追加しました。事前に訪問する10カ所の資料を自分なりに予習して臨みました。意外な反応もありましたが、知事からは八女茶の有機栽培の展開や大濠公園能楽堂の新たな取り組みが答弁されました。

公明党福岡県議団は、半導体産業、水素産業の振興策を探るために①三次元半導体研究センター②福岡半導体リスキリングセンター③水素エネルギー製品研究試験センターから概要と課題を聴取し質問。知事からは、世界から選ばれる福岡を目指すとの答弁。さらに「生きづらさを抱える若者たちへの支援」をテーマに①東京都の「トー横キッズの相談窓口」②潜在化している対象者の早期把握について「ＮＰＯ法人第三の家族のＷＥＢを使った支援ツール」③民間の支援団体の連携について「ＮＰＯ法人ＢＯＮＤプロジェクトの全国を活動範囲とした取組」等先進事例を調査し知事に提案。知事から、相談窓口は福岡市とも連携していく。潜在化している対象者の把握は民間団体を参考に取り組みを始める。支援団体の連携は団体のネットワークを立ち上げると答弁。その他、「孤立孤独対策」「下水サーベイランス」「デコ活」「育児と仕事・介護の両立支援ポータルサイトの活用」「人材確保に努力する建設業へ新たな評価制度を」「障がい者の小中高の切れ目のない取組」「投資詐欺・ロマンス詐欺対策」について知事、教育長、警察本部長に現場の声を届けることができました。

新政会

本県が先進的に取り組む「ワンヘルス」の活動は、環境問題や今後来るであろう感染症、そして自然災害への向き合い方の確かな指針になるものであり、この理念が広がることを冒頭願いながら質問を行いました。

公式訪問団等の視察については、その成果や透明化に触れた上で、海外戦略として重要な「地域外交」だと会派の認識を述べ、服部誠太郎知事の海外訪問に議会が同行する効果について尋ねました。

交通政策では、ライドシェアの課題を取り上げました。運転技術の問題や事故、犯罪に巻き込まれる懸念などがあることを指摘しその対応を質しました。知事からは、安全性の確保が大事。また地域の足を守ってきたタクシー事業者の経営や運転手の雇用と所得を守ることが必要であり、今後事業者の意見を聞きながら、制度を管理・運営する国に対し、事業の実施状況を検証するよう求めると答弁を得ました。

教育問題では、教員不足が最重要課題だと指摘した上で、小学校における教科担任制のさらなる推進と特別免許状制度の活用を併せて取り組むことが、教員の負担軽減になり、ひいては教員不足の解決にも繋がるのでは、と教育長の考えを質しました。教育長からは、小中連携をいかしたモデル校での研究はあるが、今後、国に定数要望を行い教科担任制の充実を図る。また、特別免許状の活用については、県の指針を速やかに改訂し、採用試験の特別選考や講師の任用などにおいて採用の拡大を検討する旨、答弁がありました。

その他に、水田農業の振興対策や若年層の大麻事犯等の対策や少年警察ボランティア活動についても取り上げました。